

北朝鮮における言語政策

——「文化語」を手掛かりに——

文 嬉 眞

はじめに

第二次大戦後、朝鮮半島では、同一言語をもった同一民族が二つの政治体制に分断された後、南北両域間の人的・物的な交流が途絶えてゆき、その言語体制も、二つの異なった方向へ向かっている。その一例として、国・言語・人に対する名称を、大韓民国（以下、韓国）の場合、韓国語・韓国人と表記し、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の場合、朝鮮語・朝鮮人と表記することが取り上げられる。その名称と関連して、筆者の最初の授業では、なぜ筆者の授業の名称を「韓国語」と呼称するかの説明を受講者に対して必ず行っている。なぜならば、筆者が現在朝鮮語の全てを熟知している訳ではないために、現在の北朝鮮の言葉について質問された際に、不十分な説明に止まる可能性も存在する点を事前に知らしめておくためである。

例えば、北朝鮮の人が現在の北朝鮮の言葉を発した、以下のような場面が考えられる。

「베이징에서 온 공훈가수다. 이 소리판에 수표하나 받자. 너, 알촉 만년필 있네?」

筆者は、この例文を聞いた後に、以下のように韓国語で直訳を試みた。

「北京からきた功勲歌手だ。⁽¹⁾この音の板に小切手を一つもらおう。君、先の丸い万年筆あるか。」そこには、ある歌手が北京からきたこと、また音の板とは歌手と結びつけて考えれば、レコードが連想されること、万年筆を持っているかどうか尋ねていることが窺われた。上記の例文の最もふさわしい韓国語の訳は、「北京から名誉ある歌手が来た。このレコードにサインをしてもらおう。君、ボールペンあるの」である。ここでは、韓国人（戦後生まれの人）が朝鮮語をそのまま直訳して理解しようとするならば、上記の例文にも見られるような誤訳が生じる可能性が示唆されている。

例えば、「今丑」という語彙が、北朝鮮では「サイン・署名」という意味であって、韓国では「小切手」という意味である、との言語知識を持ってなければ、上記のような事例と同様に解釈上の誤解も生じかねないということである。これは、北朝鮮で現在使用されている言語が、同一民族・同一言語といわれる韓国人にとっては甚だ異質感を感じさせる典型的な事例であると考えられる。上記のような言語上の異質感を減らし、南北両域の国民の意思疎通を円滑にし、言語上の問題を解決するために、現時点で実現可能な政策の一環として「韓・朝語彙辞書」を編纂する必要性が高まってきていると推察される。加えて言えば、上記の事例は、北朝鮮の人々が韓国語を理解する際も同様な現象が起こることはほぼ間違いなく考えられる。

ところで、2007年の歴史的な「南北首脳会談」に同行した、当時韓国の文化観光部長官であったパク・チウォン（朴智元）氏は、「南北韓の住民の使用言語と表記については、多いなる違和感を持った」ことを強調し、南北両域間の言語の異質化が益々深刻化している点を浮き彫りにしている。さらにその現象は、現在も顕著に表れつつあるのを直接目撃し、彼のその体験が、その後の南北間の言語の異質化の現象を直視させるとともに、それに真正面から取り組ませるような問題提起の役割を

も担っている。彼の指摘は、南北両域における言語の異質化の現象を深刻に受け止めつつも、早急にその異質化の現象を食い止めるための言語政策を樹立する必要性があることを示唆している。

このような南北両域間の言語の異質化が益々加速化する要因は、南北両域がそれぞれ独自の言語文字政策と言語規範を創り出したところ⁽²⁾に存在している。そして、それを実施する南北両域で言語政策が現在のような言語の異質化の現象を引き起こす大きな原因ともなっている。さらに、南北両域間の言語文字政策の根本的な相違点⁽³⁾としては、韓国では一般民衆の使用言語の変化により政府の言語政策が修正される反面、北朝鮮では先に言語政策を策定してから、人民にその言葉の修正を求める方法をとっていることを取り上げることができる。すなわち、南北両域間では全く正反対の言語政策が採られている。

北朝鮮での人為的・人工的な言語政策は、特に1964年と1966年の二度にわたる金日成教示⁽⁴⁾に基づくものであった。それは、絶対的統治者である金日成の一言によって、国家の言語政策に対して一定の方向性が決定付けられ、急激な軌道修正を辿らざるを得ない結果を招いた。さらにそれが、南北間の言語の異質化を益々加速化させる主要な契機となると同時に、それを決定付ける要因ともなっていたのである。そして、金日成の死亡後は彼の政治的な後継者である金正日が、その言語政策の多くを継承しつつ、それを指導したといわれている。また、このような北朝鮮における言語体制は「金日成が創始し、金正日がその主体主義を言語に適用・発展させた⁽⁵⁾」という主張は注目に値する。

南北言語の異質化の類型には、音韻・文法・語彙の三つの体系の異質化の現象が現れており、その異質化の現象が、顕著に現れるのは既述したような語彙体系の異質化においてである。この語彙の異質化の現象を深刻にしたものは、1966年5月14日の金日成教示によって初めて台頭した「文化語」の登場であるとい一般にいわれる。本稿は、上記のような

語彙の異質化現象の主な要因として、金日成教示によって登場した「文化語」を手掛かりに金日成教示と金正日談話を検討した後に、その「文化語」の出現の政治的な背景や、それに連なる「文化語運動」と絡めて北朝鮮の言語政策の特質を明らかにし、その特質を作りだした主要因についての分析を試みるものである。

その際に、1.では「標準語」と「文化語」の概念を明確にし、南北両域の言語政策の差を検討する。2.では北朝鮮における「文化語」の成立過程を検討し、その言葉が出現する政治的な背景をも考察する。3.では「文化語運動」の展開とその結果について見てみる。4.では「金日成教示」と「金正日談話」を検討し、そのような二つの言語指針や方針の中で多く言及される「文化語」を創り出す意味やその出現の政治的な意味についての分析を試みる。

1. 「標準語」と「文化語」の概念

標準語は、一つの国家の共通語としてその一国の言語体制・言語生活を代表する言語であるといわれる。どんな国家も、その言語体制の標準的な模範となる言葉があり、新聞・放送などの公式的な言語活動や教育などは全て標準語を通じて伝達されるのが、一般的である。韓国と北朝鮮の場合、現在、前者は「標準語」、後者は「文化語」という、それぞれ異なった標準的な言葉を決めて使用している。

朝鮮半島では日本帝国主義による植民地支配を受けていた1930年代に初めて標準語に対する基準が整えられた。1933年に朝鮮語学会が制定した「ハングル綴字法統一案(한글철자법통일안)」の総論第2項で、標準語は「표준말은 대체로 현재 중류 사회에서 쓰는 서울말로 한다.(標準語は概ね現在の中流社会で使われるソウルの言葉とする)」と規定し

ている。韓国の標準語は、この1933年の「ハングル綴字法統一案」を基礎にしており、現在使用されているものは1988年に定められたものである。その後に部分的に修正されたものもあるが、大部分は1933年のハングル綴字法と標準語規定をそのまま維持してきている。しかし、北朝鮮は新しい綴字法と標準となる「文化語」を定め、それを標準語として使用している。後述のように、それが南北言語の異質化を益々深刻にした主因にもなっている。

北朝鮮の標準語である「文化語」は、政治社会的なイデオロギー・理念の変化によってつくられたものである。「文化語」は、1966年5月14日に金日成が言語学者と意見を交わした後に出した談話の中で、その内容が具体的に説明されている。(この1966年の金日成教示の詳細については、後節で取り上げることにする。) すなわち、金日成は「革命の首都であり、揺籃地でもあるピョンヤンを中心地としてピョンヤンの言葉を基準にした言語の民族的特性を保持して発展させることにした」とし、標準語の基準地域をピョンヤンとした上で、従来の標準語の位置に「文化語」という言葉を置き換えたのである。

以上の事実を念頭に置き、以下では、「標準語」と「文化語」の概念について先ず比較してみよう。韓国で規定されている標準語とは、1988年文教部(現教育科学部)が提示した標準語査定原則第1章第1項の「표준어는 교양인들이 두루 쓰는 현대 서울말로 정함을 원칙으로 한다. (標準語は教養のある人が広く使う現代のソウルの言葉で定めることをその原則とする)」という規定を、その基本にしている。1933年の「ハングル綴字法統一案」と比べると、「표준말 (標準の言葉)」が「표준어 (標準語)」という用語に取り替えられて、時期を「현재 (現在)」を「현대 (現代)」に代替し、使用集団も「중류사회 (中流社会)」から「교양인 (教養人)」に変更している。

北朝鮮では、現在「文化語」という用語を使用しているが、「文化語」

が登場する以前までは、北朝鮮でも韓国と同様に、「標準語」という言葉を用いていた。1954年の「朝鮮語綴字法」(朝鮮民主主義人民共和国科学院)によれば、「표준어는 조선 인민 사이에 사용되는 공통성이 가장 많은 현대어 가운데서 이를 정한다. (標準語は朝鮮人民の間で使用されている共通性が最も多い現代語の中からこれを定める)」と記述されている。

ところが、1966年の金日成教示によって、「文化語」という用語が導入された後では、標準語の位置に「文化語」が置き替えられ、その概念上でも大きな変化がもたらされた。1992年の『朝鮮マル大辞典(조선말대사전)』によれば、文化語に関しては、以下のような説明がなされている。

「(문화어란) 주권을 잡은 로동계급의 당의 령도 밑에 혁명의 수도를 중심지로 하고 수도의 말을 기본으로 하여 이루어지는, 로동계급의 지향과 생활감정에 맞게 혁명적으로 세련되고 아름답게 가꾸어진 언어, 사회주의 민족어의 전형으로서 전체 인민이 규범으로 삼는 문화적인 언어 이다. 우리의 문화어는 위대한 수령 김일성동지의 주체적인 언어사상과 당의 올바른 언어정책에 의하여 공화국 북반부에서 혁명의 수도 평양을 중심지로 하고 평양말을 기준으로 하여 우리 인민의 혁명적 지향과 생활 감정에 맞게 문화적으로 가꾸어진 조선민족어의 본보기이다.」

((文化語とは) 主權を握った労働階級の党の領導の下で革命の首都を中心地として首都の言葉を基本にして成し遂げられる労働階級の志向と生活感情に一致する革命的に洗練された美しく整った言語、社会主義民族語の典型として全体の人民が規範として受け入れる文化的な言語である。わが文化語は偉大なる首領金日成同志の主體的な言語思想と党の正しい言語政策によって、共和国の北半部で革命の首都平壤を

中心地とし、ピョンヤン（平壤）の言葉を基準にして、わが人民の革命的な志向と生活感情に合う、文化的にかざられた朝鮮民族語の手本である。）（翻訳は引用者）

つまり、北朝鮮では「표준어」という用語を「문화어」という用語に、標準言語の使用集団を「조선 인민」から「로동계급」に変更し、言語使用の基準地域を「평양」としたのである。また、「文化語」について言えば、標準言語集団の特性によって「労働階級の志向と生活感情に一致する革命的に洗練された美しく整った言語」と規定しているところからある特別な目的によってつくられた人為的な用語であることがわかる。さらに、南北の「標準語」と「文化語」は、言語の依拠する地域と依拠する集団が異なることがわかる。両者は、その依拠する集団の使用言語の差と依拠する地域の差によって顕在化している。前記の事例にも見られるように、そこには南北両域の間で言語の異質化が深刻であることがある程度窺われる。以上を踏まえた上で、次には「文化語」の成立及びその背景について見てみよう。

2. 「文化語」の成立とその背景

北朝鮮は、「南北分断」以降、彼ら自身の政権に対する正当性を人民に示す必要性があった。また、南北分断の政治状況が続く間に、言語の面においても多くの変化が見られることにもなる。その変化に伴って主体思想が体系化されるとともに、言語政策の中にこれを反映させる必要があった。そのために、固有語彙や方言語彙の発掘、固有地名の活用などを通して言語生活を豊かにし、それを利用して政治思想性を強化しようとした。そのような目的の下で新しく提示された言葉が正に「文化語」

であったのである。それは金日成の強力な政治主導の下で行われた。以下ではその「文化語」の出現の背景について見てみよう。

1964年1月3日と1966年5月14日との二度にわたって金日成は、当時の使用言語に対する多くの問題点とその問題解決の方向性に関する教示を発表した。北朝鮮はそれ以降、学際上の言語学に関する全ての問題も他の分野と同様に、この二つの金日成教示に依拠して、全ての言語問題の方向性を定め、問題解決の方法を模索することとなった。この1964年と1966年の教示には、当時の金日成政権の北朝鮮の言語観、言語政策、言語学の細部項目の方向が提示されていた。そのために、それは以降の北朝鮮の言語政策の基本となって行くのである。

その二つの金日成からの教示の内容を簡単にまとめると、以下の通りである。1964年1月3日に発表された第一回目の金日成の教示では、概ね文字改革、漢字・外来語、漢字問題、単語形態の表示問題、語彙の整理、言語生活問題、朝鮮語教育などについて広く言及されている。その第一回目の教示の中で最も特徴的なのは、語彙の固有語化が非常に強調されている点である。そして1966年5月14日に発表された第二回目の金日成の教示では、第一回目の教示に比べると、その触れられている範囲は狭いものの、語彙整理、文字問題などについて言及されている⁽⁶⁾。またその時点で重要なのは、当時の政権の政治的な思惑によって新しく作り出された用語である「文化語」の登場とその成立である。

第一回目の教示では、以下で見られるように、「文化語」に対する言及は全くなく、専らソウルの言葉を標準にしてはいけないことを指示した。

・ 1964, 1, 3 교시 「조선어를 발전시키기 위한 몇 가지 문제」

「우리 말을 발전시키는데 있어서 어떤 다른 나라 말을 본받아도 안되며 또 영어나 일본말이 많이 섞여든 서울말을 표준으로 할수도 없습니

다. 우리는 어디까지나 우리 나라의 고유한 말을 기본으로 하고 사회주의를 건설하고있는 우리가 중심이 되어 조선말을 발전시켜야 합니다.⁽⁷⁾

(我々の言葉を発展させるために他のどんな国の言葉も真似してはならず、また英語や日本語が多く含まれているソウルの言葉を標準にすることもできません。我々はあくまでも我々の国の固有語を基本にし、社会主義を建設している我々が中心になって朝鮮語を発展させなければなりません。)(翻訳は引用者)

上記のように、金日成が1964年の自らの教示の中で、外国語の影響を受けている言葉は勿論のこと、当時のソウルの言葉もその標準語の基準から外し、「社会主義を建設している我々が中心になって朝鮮語を発展させなければなりません」と指摘した箇所を考えれば、既にピョンヤンの言葉を標準にした「文化語」の計画があったことが示されている。その当時は、「文化語」という名称が未だ発表されていないにしても、その時点で標準語に置き換わる言葉として「文化語」を念頭に置き、その必要性をも考えていたことが窺われる。

その一回目の教示から2年後である1966年5月14日の以下の第二回目の教示によって初めて「文化語」という名称が登場し、それが標準語に代わる名称として決定された。そして、その概念およびその使用する標準地域となるピョンヤンの言葉が確定されたのである。

・1966, 5, 14 교시 「조선어를 민족적특성을 옳게 살려나갈데 대하여」

「우리 말을 발전시키기 위하여서는 터를 잘 닦아야 합니다. 우리는 우리 혁명의 참모부가 있고 정치, 문화, 군사의 모든 방면에 걸치는 우리 혁명의 전반적전략과 전술이 세워지는 혁명의 수도이며 요람지인 평양을 중심으로 하고 평양말을 기준으로 하여 언어의 민족적특성을

보존하고 발전시켜나가도록 하여야 하겠습니다.

그런데「표준어」라는 말은 다른 말로 바꾸어야 하겠습니다.「표준어」라고 하면 마치도 서울말을 표준하는것으로 그릇되게 리해될수 있으므로 그대로 쓸 필요가 없습니다. 사회주의를 건설하고 있는 우리가 혁명의 수도인 평양말을 기준으로 하여 발전시킨 우리 말을「표준어」라고 하는것보다 다른 이름으로 부르는것이 옳습니다.

「문화어」란 말도 그리 좋은것은 못되지만 그래도 그렇게 고쳐쓰는 것이 낫습니다.⁽⁸⁾

(我々の言葉を発展させるためには基礎をよく整えなければなりません。我々には革命の参謀部があり、政治・経済・文化・軍事の全ての方面にわたる我々の革命の全般的戦略と戦術を立てる革命の首都であり、揺籃の地であるピョンヤンを中心地としてピョンヤンの言葉を基準にした言語の民族的特性を保持し発展させることとしました。

ところで「標準語」という言葉を変えなければなりません。「標準語」というとまるでソウルの言葉が標準だという間違った理解をすることになるためにそのまま使用する必要はありません。社会主義を建設している我々が革命の首都であるピョンヤンの言葉を基準にして発展させた我々の言葉を「標準語」という名称より、他の名前で呼ぶほうがいいと思います。

「文化語」という言葉もあり望ましくはないけれども、それでもそのように替えて使用したほうがよいでしょう。)(翻訳は引用者)

すなわち、北朝鮮では「革命の首都であり、揺籃地であるピョンヤンで現在使用されている言葉」を言語基準にしていくことを表明し、「その言語の民族的特性を保持・発展させる」ことが金日成の教示によって示された。さらに標準語の使用地域を言及する中で、主にピョンヤンで現在使われている言葉をその基準として提示する際に、標準語という用

語を回避し、「文化語」と命名した。そして、その新しく指定した使用地域であるピョンヤンを中心とする「文化語」の位置を「標準語」と同等な地位に置くのである。さらに、同教示で標準となる「文化語」の語彙は、地上^マ討論を通じて大衆の評価を受けなければならないとし、日常用語をはじめとして専門用語に至るまで全ての用語を整理し、「文化語」を学校や新聞・放送に広く知らせなければならないと強調した。

3. 「文化語運動」とその展開

上述のように、金日成教示による「文化語」の指定以降、標準語という用語は徐々に使用されなくなるとともに、急激に「文化語運動」が展開された。この「文化語の使用運動」を担当し、それを推進する機関として1966年6月からは内閣の国語査定委員会と社会科学院の国語査定指導処および言語学研究所が動員され、言語浄化（말다듬기）事業が政府の主導の下で組織的に展開された。この社会科学院は、「共産党の政策を合理化し、洗脳教育に必要な諸資料を作成し、共産主義理論に立脚して社会科学全般にわたるいわゆる創造的な発展を助けることを主な任務とする」⁽⁹⁾重要な政策機関であるといわれている。

具体的に言えば、社会科学院の傘下に法学研究所、哲学研究所、歴史研究所、文学研究所、言語学研究所、国際問題研究所、経済研究所などの諸機関が置かれている。その中で特に、言語学研究所は党との関係で党政策機関の指揮・監督下にある機関であり、党が提示する研究課題を遂行する使命をおびている。またこれは、この言語学研究所傘下に18ヶ所の専門用語分科委員会がおかれ、言語浄化（말다듬기）事業や「文化語」の選定作業を国語査定委員会とともにに行った機関である。同組織の機関誌として『朝鮮語文』、『文化語学習』がある。その中で、後者の

(11)
18ヶ所専門用語分科委員会

専門用語	分科委員会
一般語	一般用語分科委員会
医学・薬学	医薬学用語分科委員会
金属	金属用語分科委員会
生物	生物学用語分科委員会
農学	農学用語分科委員会
数学・物理・化学	自然科学用語分科委員会
建設・水利	建設・水利用語分科委員会
電気・通信	電気・通信用語分科委員会
機械	機械用語分科委員会
軽工業	軽工業用語分科委員会
商品名	商品名用語分科委員会
文学芸術	文学芸術用語分科委員会
社会科学	社会科学用語分科委員会
体育	体育用語分科委員会
水産・海洋	水産・海洋用語分科委員会
運輸	運輸用語分科委員会
地質・地理・鉱業	地理・鉱業用語分科委員会
林学	林学用語分科委員会

『文化語学習』は、1966年の金日成による教示の発表後に、1968年に創刊された季刊誌である。同季刊誌は、論文や解説などを通じて「文化語運動」の中核的な役割を果たしていた。⁽¹⁰⁾

この「文化語運動」は、1950年から1960年代の言語浄化運動（말다듬기운동）に続くものである。さらに文化語運動は、漢字語・外来語の整理や方言からその運動に適合する言葉を選別して「文化語」へ移行させようとする動きでもあった。さらにこの運動は、「文化語」の内容的な面を補完・強化し、それを具体化した言語運動としての、一種の「語学革命」の意味を持った動きであったといえる。そして、1966年7月には「朝鮮語綴字法」を改定して『朝鮮マル規範集（조선말규범집）』

が発行された。既述したように、金日成教示で定められた実質的な言語浄化作業と文化語普及運動のために、1968年から『文化語学習 (문화어학습)』の刊行や『現代朝鮮マル辞典 (현대조선말사전)』、『文化語辞典 (문화어사전)』などの文献を刊行している。それとともに、1976年には「文化語」の規範文法が確立された。

1968年の『現代朝鮮マル辞典 (현대조선말사전)』には「文化語」の基本的な単語約5万個の見出し語が選定されて掲載されている。同辞典は、漢字を全く使用していない点で、大きな特徴をもっている。また、1980年までは、平安道 (평안도)、咸鏡道 (함경도)、江原道 (강원도) 地域の方言の中から3100個余りを選別し、それを「文化語」として使用することが含まれている。このように、北朝鮮では「文化語運動」の一環として方言や新しい言葉を発掘して『朝鮮マル大辞典 (조선말대사전)』(1992年) に新しい語彙として追加されている。

すなわち、金日成は言語浄化運動や「文化語運動」、言語政策事業などを通じて彼自身の独自の主体言語理論をつくりあげたのである。それによって、現在まで北朝鮮の言語が歩んできた言語上の発展の歴史的事実が歪曲される結果となる。そして、それによって替わって、金日成の主体言語理論によって北朝鮮住民の言語生活が支配された状況になる¹²⁾。また、金日成教示の中で始めて創り出された「文化語」によって、朝鮮半島の民族語はその言語的な分断＝異質化を自ら招くことになった。現在、北朝鮮は朝鮮半島が統一した後に、「文化語」を共通語として使用する言語の統一する構想をしているといわれている。

4. 「金日成教示」と「金正日談話」に見られる「文化語」

既述のように、北朝鮮の言語政策は「金日成が創始し、金正日がその

主体主義を言語に適用・発展させた」と一般に認識されている。それは、金日成の絶対的な教祖主義的な政治統制の下で共産主義体制を擁護し、一方では独自の民族語に対する発展を成立させたということである。1994年7月8日の金日成の死亡後は、金正日が父親の言語政策を継承したといわれる。そして息子である金正日は、1980年代から既にその活動を始めており、金日成の理論をより体系化している。以上を踏まえて、次は金正日の主体思想を中心にした言語政策を具体的に見ていく必要があるが、それは別稿に譲ることとする。以下では、金日成の教示によって提示された「文化語」の主張は、既に1960年代の「金正日談話」等に逸早く「文化語」の必要性が示唆されていた点と、「金正日談話」がどのような意味をもつのかについて見てみよう。

上記のような二回にわたる金日成教示は、その後の北朝鮮の言語政策の基調になっていった。その一方で、北朝鮮の言語政策をめぐるいわゆる金正日の談話は1990年代初め頃から急に浮上してくることになる。金正日が言語政策に触れている多くの部分は、彼自身が金日成総合大学の学生と交わしたとされる談話の内容の中で現われている。その内容は、概ね金日成教示とあまり変わらない内容となっている。だが、その中の一部には、かなり進歩的な内容も含まれている。そこで特に重要なのは、「朝鮮語の単一起源説」に言及している点である。その金正日の談話は、1961年5月25日から始まっており、1994年の『문화어학습 (文化語学習)』2号にその内容が詳細に掲載されている。

・ 1961년 5월 25일 「언어생활에서 주체를 세울데 대하여」

「민족적특성이 살아있고 현대적요구에 맞게 세련된 규범적인 평양말을 써야 합니다.

지금 일부 학생들은 규범적인 평양말을 쓰는것이 아니라 사투리를 비롯한 비규범적인 말을 쓰고있습니다. (생략) 우리는 언어생활에서

도 낡은것을 무턱대고 되살리려는 복고주의적경향을 반대하여야 합니다.

사투리는 함경도사투리나 평안도사투리나 할것없이 다 쓰지 말아야 합니다. 사투리는 옛날부터 그 지방 사람들만이 써오는 말로서 일정한 지역이나 지방에서만 통하는 말입니다. 사투리를 다른 말로 방언이라고 합니다. (생략) 사투리는 쓰지 말아야 하며 버려야 할 말입니다.

일부 학생들은 사투리를 쓰면서 우리 말을 잘 살려쓰려 하지 않고 있습니다.

대학생들은 사투리를 버리고 우리 말의 표준인 평양말을 써야 합니다.

해방후 우리 민족어는 나라의 정치, 경제, 문화의 중심지인 평양을 중심으로 하여 발전하였습니다. 우리 민족어의 고유한 특성은 평양말에 집중적으로 구현되어있으며 평양말이 민족어의 규범적인말로 발전하여왔습니다. 평양말은 오늘 공화국북반부에서 민족적특성이 높이 발양되고 현대의 요구에 맞게 끊임없이 발전하는 우리 민족어의 표준으로 되었습니다. 우리는 우리 민족어의 표준인 평양말을 널리 살려 써야 합니다」⁽¹³⁾

(民族的特性が生きていて現代的な要求と合う、洗練された規範的なピョンヤンの言葉を使わなければなりません。今、一部の学生たちは規範的なピョンヤンの言葉を使うのではなく、訛りを始めとして非規範的な言葉を使っています。(省略) 私たちは言語生活でも古いものをむやみに蘇らせる復古主義的な傾向に反対しなければなりません。

訛りは咸鏡道の訛りや平安道の訛りなど全て使ってはならない。訛りは昔からその地方の人たちだけが使っている言葉として一定地域や地方でしか通じない言葉です。訛りを他の言葉で方言といいます。(省略) 訛りは使ってはならず、棄てなければならない言葉です。

一部の学生は訛りを使いながら我々の言葉を上手に使おうとします。

大学生は訛りを棄て、我々の言葉の標準であるピョンヤンの言葉を使わなければなりません。

解放後、我が民族語は国の政治、経済、文化の中心地であるピョンヤンを中心にして発展しました。我が民族語に固有の特性はピョンヤンの言葉に集中的に具現されており、ピョンヤンが民族語の規範的な言葉として発展してきました。ピョンヤンの言葉は今日、共和国北半部で民族的特性が高く発揮され、現代の要求に合うように絶え間なく発展する我が民族語の標準となりました。我々は民族語の標準であるピョンヤンの言葉を広く活用しなければなりません。)(翻訳は引用者)

以上の内容は、金正日が言語問題を中心とするテーマに関連して行った談話である。それは1961年に金日成総合大学の学生と「언어생활에서 주체를 세울데 대하여 (言語生活における主体性の確立について)」という題目で発表されたものである。ここでは、言語と民族の関係、言語の機能、言語生活の問題などに言及されている。そして彼の談話の中で特に注目すべき点は、「洗練された規範的な言葉であるピョンヤンの言葉の使用」、「方言の使用禁止」、「我が言葉の標準であるピョンヤンの言葉の使用」を主張した内容である。これは、北朝鮮の発表上では1966年の二回目の金日成教示より5年も前に発表した言語政策に対する主張となっている。だが、金正日が発表したとされる、その談話の公表時期については後述のようにいくつかの疑問が残る。

また、1995年『문화어 학습 (文化語学習)』4号に掲載された1963年10月25日金日成総合大学の学生と「언어생활에서 문화성을 높이자 (言語生活で文化性を高めよう)」という題目で行った談話では、「言語の中から文化性を高める」ことについて言及されている。

・ 1963년 10월 25일 「언어생활에서 문화성을 높이자」

「언어는 의사소통의 수단인것만큼 사투리를 쓰게 되면 사람들이 서로 의사를 자유롭게 나눌수없게 됩니다 . 사투리에는

문화성이 없는것도 적지 않습니다 . (생략)

언어에서 문화성을 높여야 합니다 .

문화성있게 말을 하고 글을 써야 사람의 인품도 높아지고 사회에 고상한 도덕적기풍을 세워나갈수 있습니다 . (생략)

언어생활에서 사투리나 군말과 같을 비문화적인 말을 하고 글을 쓰면 우수한 우리 말의 건전한 발전에 지장을 주게 됩니다 .」⁽¹⁴⁾

(言語は、意思疎通の手段であるため訛りを使うようになれば、人々がお互いの意思を自由に伝えることができません。訛りには文化性がないものも少なくありません。(省略)

言語で文化性を高めなければなりません。

文化性がある言葉と文字を使うことで人格も高くなり、社会に高尚な道徳的気風を植えられることができます。(省略)

言語生活で訛りや無駄口のような非文化的な言葉を使って文字を書くならば、優秀な我が言葉の健全な発展に支障を与えることになりません。)(翻訳は引用者)

金正日は、「方言は非文化的な言語である」と主張し、「非文化的な方言を使用することになると、お互いの意思疎通の面で不自由になる」状況が生じる可能性を強調している。そして、「言語生活の中から文化性を高める」必要があり、「その文化性の高い言語を使用することによって人格も高めることになる」と主張し、言語問題を人格問題とも結びつけて触れている。ここで特に重要なのは、金正日が既に金日成教示よりも前に方言を言語政策の妨げになると捉え、それに言及していることである。

以降、金正日は1964年1月6日と1964年2月20日に金日成総合大学

の学生と「조선어의 주체적발전의 길을 밝혀준 강령적지침 (朝鮮語の主体的發展の道を示した綱領的な指針)」と「언어와 민족문제 (言語と民族問題)」の題目で談話を行った。金正日の 1 月 6 日の談話は、第一回目の金日成教示の三日後に行なわれたものである。同談話は、金日成教示の「言語の本質と社会的機能」に関する問題を浮き彫りにし、言語の主体が人民であることを強調した内容となっている。その際に、再度「朝鮮語の基準は革命の首都であるピョンヤンの言葉である」ことを主張したのである。

・ 1964 年 1 月 6 日 「조선어의 주체적발전의 길을 밝혀준 강령적지침」
 「조선어의 기준은 혁명의 수도인 평양의 말입니다. 나라의 정치, 경제, 문화의 중심지이며 혁명의 거점인 수도를 중심으로 하여 언어문제를 해결하고 수도의 언어를 기준으로 민족어전반을 발전시켜나가는 것은 사회주의적민족어건설에서 일관하게 견지하여야 할 근본원칙입니다. 혁명의 수도는 노동계급의 탁월한 수령의 현명한 령도밑에 당과 국가의 모든 정책이 제시되는 중심지이며 당적인 출판보도물이 발행배포되는 언어생활의 거점입니다. 혁명의 수도인 평양의 언어는 지역별 언어적차이를 초월하여 형성되고 발전하며 중요하게는 위대한 수령님께서 창시하신 혁명적문풍을 본보기로 하여 민족어의 온갖 우수한 요소를 집대성하고 있습니다. 평양말은 토배기의 말도 아니며 사투리가 섞인 평안도의 말도 아닙니다. 평양말은 조선어의 고유한 민족적특성을 가장 훌륭히 구현하고있으며 민족어 발전의 가장 높은 수준에 이른 언어입니다.⁽¹⁵⁾」

(朝鮮語の基準は革命の首都であるピョンヤンの言葉です。国の政治、経済、文化の中心地であり、革命の拠点である首都を中心にして言語問題を解決し、首都の言語を基準に民族語全般を發展させていくことは、社会主義的民族語の建設において一貫した見地で行うことを基本

の原則にする。革命の首都は労働階級の卓越した首領の賢明な指導の下で党と国家の全ての政策が提示される中心地であり、党籍を有する出版社の出版物が発行・配布される言語生活の拠点です。革命の首都であるピョンヤンの言語は地域と言語的差異を超越して形成され、発展した。重要なことは偉大な首領様が創始した革命的文風を見本にして民族語の優秀な要素を集大成していることです。ピョンヤンの言葉はその土地の言葉でもなく、訛りが混ざった平安道の言葉でもありません。ピョンヤンの言葉は朝鮮語の固有の民族的特性を最も立派に具現しており、民族語の発展の最高水準に達した言語です。)(翻訳は引用者)

金正日が積極的に「文化語」という用語を用いるのは、1992年の「언어형상에 문학의 비결이 있다. (言語形状に文学の秘訣がある)」(『주체문학론 (主体文学論)』)という著作である。その中で彼は言語学に関する考え方を取り上げ、それについて詳しく説明している。

・ 1992년 「언어형상에 문학의 비결이 있다.」

「우리나라에서는 지금 고유한 우리말을 적극 살리는 한편 지난날 우리 말속에 흘러들어온 외래어와 한자어를 정리하는 사업이 힘있게 벌어지고 있다. 이것은 우리말의 민족적 특성을 고수하는 면에서는 물론, 북과 남사이에 언어의 이질화를 막는데서도 중요한 방도로 된다. 지금 남조선에서 민족어가 심히 말살되고있는데다가 북과 남의 거래들이 오래동안 서로 갈라져 살아오면서 언어교류를 할수 없었기때문에 언어의 공통성이 사라질수 있는 위험이 조성되고있다. (생략) 해방전까지 《표준어》로 삼아오던 서울말도 변질되어 영어, 일본어, 한자어 투성이로 되었으며 말투와 억양이 우리 민족의 전통적미감에 맞지 않는 이상한것으로 변하였다. 공화국 북반부에서만은 우리 당의

올바른 언어정책에 의하여 예로부터 써오던 고유조선말이 순수하게 살아남아있으며 시대의 요구에 맞게 발전하였다. 혁명의 수도 평양은 우리말과 글의 민족적특성을 가장 순결하게 고수하고 발전시킨 문화어의 중심지이다. 새롭게 발전한 오늘의 평양말을 기준으로 삼는다면 우리말의 순결성과 주체성을 살리면서 그것을 건전하게 발전시킬수 있다. 평양문화어는 공화국북반부 전체 인민의 공동의 노력으로 창조하고 가꾸어온 우리 민족어의 우수한 언어요소를 집대성하고 있으며 서울말을 비롯하여 남조선 각지에서 전통적으로 써오던 좋은 민족어 요소도 흡수하여 발전시킨것이다. (생략) 작가는 우리 당의 언어정책의 정당성을 누구보다 깊이 인식하고 평양문화어를 적극 살려써야 한다.⁽¹⁰⁾ (『주체문학론』)

(我が国では今日、固有語を積極的に活用する一方、過去、我々の言葉の中に入ってきた外来語と漢字語を整理する事業が強力に推し進められている。これは我々の言葉の民族的特性を断固として守る側面はもちろん、北と南の間に言語の異質化を防ぐことにおいても重要な方策になる。今日、南朝鮮で民族語がかなり抹殺されているだけでなく、長い間北と南の同胞が分断されている間、言語交流ができなかったために言語の共通性が薄れていく危険性が醸成されている。(中略)このような時に北と南がそれぞれの人民の言語生活をなりゆきに任せておくならば、近い将来、民族の基本要素である言語の単一性をも失うことになる。例えば言語交流のない条件下でも北と南が同一の基準、同一の原則を設けて言語を発展させるならば、そのような事態を事前に防ぐことができる。北と南がともに固有朝鮮語を基準にして言語の基本枠を立て、外来語と漢字語を整理し、我々の言葉に替える原則から言語を発展させるならば、予め言語の異質化を防止し、その純潔性を守ることができるだろう。(中略)解放前まで《標準語》として考えられてきたソウルの言葉も変質して英語、日本語、漢字語だらけにな

り、口調や抑揚が我が民族の伝統的な美の感覚に合わない奇妙なものに変わってしまった。共和国北半部だけは我が党の正しい言語政策により、昔から使われてきた固有の朝鮮語が純粋な形で残っており、時代の要求に合うように発展してきた。革命の首都ピョンヤンは我々の言葉と文字の民族的特性の純潔さを最もよく守り、発展させた文化語の中心地である。新しく発展した今日のピョンヤンの言葉を基準にするならば、我々の言葉の純潔性と主体性を保ちながら、それを健全に発展させることができる。ピョンヤン文化語は共和国北半部の全人民の共同努力によって創造され、培われてきた我が民族語の優秀な言語要素を集大成しており、ソウルの言葉を始めとして南朝鮮各地で伝統的に使われていた良い民族語の要素をも吸収し発展させたものである。（中略）作家は我が党の言語政策の正当性を誰よりも深く認識してピョンヤン文化語を積極的に使用・活用する。）（翻訳は引用者）

金正日は「固有語を積極的に取り入れること」または「外来語や漢字語を整理すること」によって「南北言語の異質化を防止する」ことを主張した。そして、「標準語であったソウルの言葉は現在、英語、日本語、漢字語などの影響を受けて変質してしまった」とも主張した。また彼は、「革命の首都であるピョンヤンは、我々の言葉と文字の民族的特性の純潔さを最もよく保持して発展させた文化語の中心地である」と強調し、「ピョンヤン文化語」の優秀性にふれ、積極的に取り入れることを主張したのである。すなわち、金正日が「文化語」という用語を談話ならびに著作に積極的に使用したのは、この著作の中においてである。これは、1966年の金日成教示から25年後のことである。また金正日の言語理論は、金日成の主体思想と言語政策をほぼ全面的に継承している。上記の談話は、概ね過去の金日成教示を再整理したような内容となっている。

以上の事実の中で重要なのは、1960年代に言及したとする金正日の

言語観に関する談話と著作が、なぜ1990年代に初めて公式的に出版されたのか、その背景に関する疑問である、という事実である。言い換えれば、1961年、1963年、1964年に為された談話とその内容が、なぜ約30年後に公式的に発表されたかという問題に対する疑問である。この点を解明できる資料は手許にはないものの、概ね以下のような二つの理由が存在していると推察される。すなわち一つ目は、金日成の生前当時に、まだ金日成総合大学の学生であった金正日を浮き出させることは、父親である金日成に対しては非礼にあたると捉えていた可能性である。

二つ目は、上記のような内容の談話を金正日が実際には行ってもいいにも関わらず、彼があたかもそのような談話を行ったかのように談話の事実を操作し、90年代になってからそれを発表した、と主張することによって、金正日の立場または権威を強化し、「金正日の偶像化政策」を図ろうとする目的をもった政治的な意図の可能性である⁽¹⁷⁾。さらに1992年と1993年に出版された『김정일선집（金正日選集）』には、このような言語政策に関する著作が一切含まれていないことから、捏造の可能性を否めないであろう。以上をまとめれば、北朝鮮の全般的な言語政策は、金日成教示から始まったと見るのが妥当であって、「文化語」に関する提唱においても金日成の政策によって見出されたと見るのが妥当であると思われる。そのような言語政策によって、南北両域の言語異質化が益々深刻化していったことは明らかであろう。

おわりに

南北両域の言語の異質化は、韓国・北朝鮮のような分断国家が抱える宿命的とも言える現象の一つの断面を明確に示している。1948年から今日まで約60年間の分断の歴史の中で、南北両域がそれぞれの独自の

言語政策と言語規範を創り出すことによって、南北言語の異質化が益々深刻化することになる。本稿は、南北言語の異質化現象の一つである「語彙の異質化」を検討する上で、主要要因と考えられる北朝鮮の「文化語」と「文化語運動」についての分析を行った。

その結果として、我々は、以下のような二つの知見を得ることができた。すなわち第一に、北朝鮮における新たな標準語を意味する「文化語」の登場が、従来南北両域が共有していた標準語の基準の変化を意味し、それが南北間の言語の異質化を促したという点である。言い換えれば、北朝鮮は従来の標準語の言語基準を破棄したのであり、それに取って替わる「文化語」という独自の用語や基準を設けて一般民衆に対してその基準を強要することによって南北間の言語の異質化をもたらした点を本稿で明らかにしている。

そして第二に、北朝鮮における言語政策は、言語の生成から消滅までの自然発生的な変遷過程を度外視し、上（当時の政権）から押し付けられた一方通行的な言語政策が採られ、それが南北間における言語の異質化の現象を促進させた大きな原因となっているという点である。その際に、一国の言語政策が当時の政治指導者（金日成）の教示や（金正日）談話によって行われた結果、言語政策そのものが、北朝鮮の政治的な体制維持のための道具と化した点も本稿は明らかにしている。

以上でも見られたように、北朝鮮の主要な言語政策は政治的指導者による人為的なものであるといえる。すなわち、北朝鮮の言語政策は一般にみられる言語の生成から消滅までの過程を辿るのではなく、当時の政府が対処するという上から与えられたものとなっている。言い換えれば、北朝鮮では先に使用言語と活用文字を政策的に決定した後に、人民の使用言語を徐々に直していく人為的な言語政策が、その特徴であるといえる。その結果、北朝鮮の言語には多くの変化がもたらされ、現在の韓国語と顕著な異質化の現象を招いているのである。

註

- (1) 北朝鮮では、映画俳優・歌手・演劇人の中から優れた人に対して、人民・功勳などの称号をつけて呼び、その呼称にふさわしい待遇を受ける。「人民俳優（歌手）」は次官級の待遇を受け、「功勳俳優（歌手）」は局長級の待遇を受ける。
- (2) 拙稿「韓国と北朝鮮における言語規範の比較—「分かち書き」を中心に—」『語研紀要』第30巻第1号、愛知学院大学、2005年、pp. 227-245.
- (3) 拙稿「韓国における文字政策—漢字教育の変遷について—」『語研紀要』第32巻第1号、愛知学院大学、2007年、pp. 173-201.
「北朝鮮における文字政策—漢字廃止と漢字教育の現状—」『語研紀要』第33巻第1号、愛知学院大学、2008年、pp. 113-138.
- (4) 北朝鮮では金日成がいうことを「教示」といい、金正日がいうことを「指摘」と言う。
- (5) 김민수의 『김정일 시대의 북한언어』 태학사, 1997
- (6) 拙稿、「(「北朝鮮における文字政策」) 前掲論文、p. 117.
- (7) 김일성 「조선을 발전시키기 위한 몇 가지 문제」 「언어학자들과 하신 담화」 (1964, 1, 3 교시) (『문화어 학습』 1968년 2 호)
- (8) 김일성 「조선을 민족특성을 옳게 살려나갈데 대하여」 「언어학자들과 하신 담화」 (1966, 5, 14 교시) (『문화어 학습』 1968년 3 호)
- (9) 정경일 「북한의 언어정책 시행기관」 『북한의 어학혁명』 북한언어연구회편、1989、pp. 42-43.
- (10) 조오현・김용경・박동근 「북한의 언어정책 기관」 『남북한의 언어의 이해』 역락、2002、pp. 77-80.
- (11) 同上書、p. 78.
- (12) 남성우・정재영 「문화어란 표준어와 어떻게 아른가」 『북한의 언어생활』 고려원、1990、pp. 22-23.
- (13) 1961년 5월 25일 「언어생활에서 주체를 세울데 대하여」 김일성종합대학 학생들과 한 담화 (『문화어 학습』 1994년 2 호)
- (14) 1963년 10월 25일 「언어생활에서 문화성을 높이자」 김일성종합대학 학생들과 한 담화 (『문화어 학습』 1995년 4 호)
- (15) 1964년 1월 6일 「조선의 주체적발전의 길을 밝혀준 강령적지침」 (『문화어 학습』 1994년 1 호)
- (16) 1992년 「언어형상에 문학의 비결이 있다 .」 (『문화어 학습』 1993년 2 호)
- (17) 김민수의 「김일성교시와 김정일의 언어이론」 前掲書、pp. 42-43.

参考文献

- 김민수와 『김정일 시대의 북한언어』 태학사, 1997
 金敏洙 『北韓의 國語研究』 高麗大學校出版部, 1985
 『북한의 조선어학사』 녹진, 1991
 남성우·정재영 『북한의 언어생활』 고려원, 1990
 조오현·김용경·박동근 『남북한의 언어의 이해』 역락, 2002
 崔溶奇 『남북한 국어 정책 변천사 연구』 박이정, 2003
 정희원 「남북한의 언어차이」 『한국어언수교재』 국립국어연구원, 2002
 洪妍淑 「북한의文化語와 언어정책」 『共產圏研究論叢』 Vol. 2, 1990
 文嬉眞 「韓国と北朝鮮における言語規範の比較」 『語研紀要』 第30卷、愛知学院大学, 2005
 「韓国における文字政策」 『語研紀要』 第32卷、愛知学院大学, 2007
 「北朝鮮における文字政策」 『語研紀要』 第33卷、愛知学院大学, 2008

